

—ホットボンド・金槌による木工活動の保育者の捉え—

1. 研究の目的

1987年、環境と開発に関する世界会議で『持続可能な開発 (sustainable development)』という表現が用いられ、日本の政府は2005年12月、「国連持続可能な開発のための教育の10年」に向け関係行政機関の連携を図るため、「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議を内閣に設置し、「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関する日本実施計画が発表され、今年で10年目になる。文部科学省は、義務教育課程におけるESD推進し、ユネスコ・スクールを中心に行うことを決め、平和や国際的な連携を学校での実践を通じて促進することを目的に設けられた。教育現場では、ユネスコ・スクールの4つの基本テーマであげられ、幼児教育においても「環境教育」が重要視されいろいろなところで取り上げられている。^{注1)}

幼児教育においては、保育は「環境を通して」行い、自然環境、地域環境とかかわりながらいろいろな体験をして心情や意欲、態度が育まれていくとしている。身近な自然に触れることで、それらに興味関心を持ち、自分たちの生活の中で潤いや生かされていることに気付き、身近な文化的な生活環境、自然環境とかかわりながら、将来の持続可能な開発のための英知の素地を育むことに繋がっていくと考える。

身近な木の実や葉といった自然物は、基本的に自然の恵みであり、保育者としてもそれほど子どもの活動に規制せずに与えられている素材でもある。そういった比較的自由に扱える自然の物は、試行錯誤しながら何度でも使える素材

なので幼児の製作的活動の素材として都合がよいと考える。また、身近な自然の中に葉や木の実、枝など、見慣れた形でありながら同じ種類で集めて見ると一つ一つ微妙に違う。これらを素材として造形活動を行った場合、既製の素材と違って一律の形や大きさとは限らないので最初は思ったように表現できないこともある。しかし、逆に思い通りにいかないところで自分なりに工夫したり、想像力を働かせたりすることで、感じることを考えることが育まれていくものと考ええる。

そこでこれからの研究として、幼児の身近な自然の物（木の実や間伐材の廃材等）の環境の構成と製作活動について取り上げていきたい。自然物や廃材等を利用した製作活動を通して、表現する楽しさを味わい、幼児自ら考え表現することで、主体的に取り組む態度と意欲が養われる機会になりうると考える。さらに、幼児が製作活動から材料を集めたり準備したりするところにも関心が向けられるようになれば、身近な自然の環境に関心を持って触れ、それらを使って表現すること、そして育て守ることの大切さといった幼児期にとって重要な環境教育ができるであろう。活動の環境構成の在り方から、保育の指導計画の在り方へと研究を継続して行っていきたい。

まず今回の研究(1)として、筆者は木工活動をする際に幼児が自然物を使った木工活動を進めるにあたって、表現する道具としてホットボンド及び金槌が有効であると考え、それらの用具を保育者はどのように捉えるのか、実際に幼児の木工活動の状況を体験しながら保育者の観点を考察するものとする。

注 1) 引用 [ja.wikipedia.org/wiki/
持続可能な開発のための教育](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8C%B0%E7%B9%A8%E5%8F%A4%E3%81%AB%E5%AD%A6%E8%82%B1)

2. 研究の方法

調査1で幼稚園、保育所で自然物を利用した木工活動を実施し、その後調査2として質問紙によるアンケート調査を行い、今回の木工活動に環境構成に対する保育者の観点を探るものである。

(1) 調査1 自然物を利用した木工活動実施

①対象：A幼稚園、B幼稚園、C保育園

D保育園、E保育園、F保育園

計6園【幼稚園2園、保育園4園】

※1保育園は岩手県に隣接した市町村であるが、他の5園は岩手県内

※今回、以下の園に調査を依頼するにあたり、自然物を使った木工活動を行うにあたり、木の実や枝等の間伐材や木片等の材料でホットボンドや金槌を使っての木工活動することに理解を示していただいた園である。これら対象となった幼稚園、保育園は、自然物や廃材を利用して製作活動することに関心を持っている園と言って良いであろう。

②記録：幼稚園、保育園での5歳児を対象とした木工活動の実施し、写真、ビデオによる活動の様子を記録する。また、援助者として3～4名の学生が同行するが活動後に学生の気づきを所定の用紙に記録する。

③期間：平成25年度、平成26年度にそれぞれ以下の時期に1回行う。

平成25年度		
	ホットボンド 使用	ホットボンドと 金槌使用
A幼稚園	10月	11月
B幼稚園	11月	12月
C保育園	10月	11月
D保育園	10月	12月
E保育園	12月	

平成26年度		
	ホットボンド 使用	ホットボンドと 金槌使用
A幼稚園	12月	
B幼稚園	11月	
F保育園	1月	

おおよそ9：30～11：30の時間帯で90分前後の活動が行われた。ホットボンドの使用時は、使用上の注意を説明の上、幼児の状況に応じて、使い慣れている子であれば幼児に自由に使用させるが、慣れていない子や細かいところは学生が接着の補助をする。

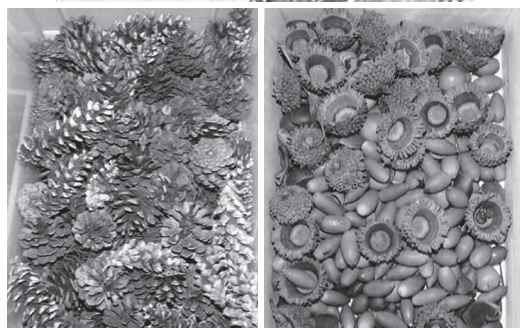
④活動に対する援助

4～5人の幼児に1名の学生や保育者がかわられるように配置する。

また、金槌の使用時は、金槌の道具の紹介と使い方の説明を行った上で、ホットボンドを併用しながら使用する。

⑤素材：木の実、間伐材や枝、端切れの板を子どもが扱いやすい大きさに加工した物、木工場から出た廃材等

※基本的に木の実は1分熱湯に漬す。



岩崎：身近な木の実や木片の環境構成と子どもの遊び（1）

※細い枝は短長いろいろに長さのものを準備



※学校や公園で伐採した枝等をもらいうけ、幼児が扱いやすい大きさに切ったものを準備。



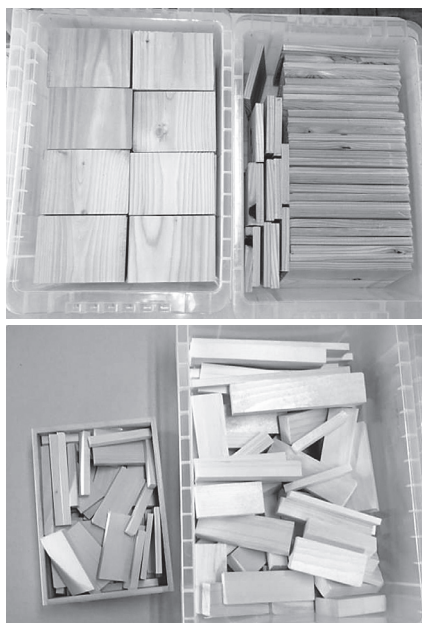
※時期によって花や野菜の種を取り入れた。



※保育者の要望等に応じて使えるように準備したものと
して、人工物ではあるが装飾用として、動眼、スパン
コール、モール、毛糸等を提供した。クリスマスの飾
りを作りたいという時に使用したが、ほとんどは自然
物中心で行った。



※主に金槌による木工活動時の素材として板状の物、角材等を準備



※金槌と釘を使用際に釘が刺しやいす用に予め穴を開けたものも準備した。



⑥ 製作用具：木工用ボンド、ホットボンド、金槌、釘、延長コード等

※それぞれの園において1回目の木工活動の時は、これらホットボンドで接着しながら製作する。



※それぞれの園で2回目の木工活動ができる場合には、金槌を用意し、ホットボンドと併用して自由に使えるようにした。



- ・釘は、幼児の操作性と作品の大きさを想定して25 mm と 38 mm の長さを準備する。
- ・金槌は、ある程度の重さが必要なので 225 g の物で、柄は短い方が操作しやすいので一般に大人が使用する物と比べ半分程度の長さの物を用意した。

(2) 調査2 活動後のアンケートによる調査
対象園の保育者を対象に、木を使っの遊びの様子について質問紙と聞き取りによる調査を行う。

〔アンケート用紙〕

様		平成 年 月
		盛岡大学短期大学部
		准教授 岩崎基次

木工活動と製作活動に關したアンケート

この度、木片や枝等の腐材及び自然物を使って「作る」活動（園庭）にご協力いただき誠にありがとうございます。つきましては、対象となっているお子さんの木工活動の状況についてお伺いします。また、クラスでの造形活動等における活動の状況等についても伺います。

このアンケートをお書きになる先生の該当するところに○を付けてください。
【園長先生、主任、5歳児担任、その他（ ）】

1. 1回目のホットボンドを使った木工活動について、該当するもの○を付けてください。

(1) 1回目のホットボンドによる木の葉や木片での木工活動は、子どもたちにとって適していたでしょうか。
①非常に適していた ②まあまあだった ③合っていないかった

その理由をお書きください

(2) このようなホットボンドによる木の葉や木片での木工活動は、今後園でもやってみたいと思いますか。
①非常にやってみたいと思う ②どちらともいえない
③特にやってみたいと思わない

(3) このようなホットボンドによる木の葉や木片での木工活動について、以下の内容に該当するものに全て○を付けてください。
 ①道具をそろえてやりたい ②材料をそろえてやりたい
 ③活動が楽しいと思う ④保育者の手が必要になるのでできないと思う
 ⑤材料を集めるのが大変そうなのでやるのは難しいと思う
 ⑥その他何がありましたらお書きください。

(4) このホットボンドでの木工活動で、子どもたちの取り組みの様子をご覧になって気付かれたこと、感想等をご自由にお書きください。

2. 2回目の釘や金槌による木工活動について、該当するものを○を付けてください。

(1) この釘や金槌による木工活動は、子どもたちにとって進んでいたでしょうか。
 ①非常に進んでいた ②まあまあだった ③進んでいなかった
 その理由をお書きください

(2) このような釘や金槌による木工活動は、今後園でもやってみたいと思いますか。
 ①非常にやってみたいと思う ②どちらともいえない ③特にやってみたいと思わない

(3) 釘や金槌による木工活動について、以下の内容に該当するものに全て○を付けてください。
 ①道具をそろえてやりたい ②材料をそろえてやりたい
 ③活動が難しいと思う ④保育者の手が必要になるのではないかと思う
 ⑤材料を集めるのが大変そうなのでやるのは難しいと思う
 ⑥危険なので特別に進んでいると思う
 ⑦その他何かありましたらなお書きください

(4) この釘や金槌による木工活動で、子どもたちの取り組みの様子をご覧になって気付かれたこと、感想等をご自由にお書きください。

3. 子どもたちが制作的な活動で、以下の道具や素材を使ったことがあるもの、やったことのある活動に、全て○を付けてください。

素材 ①粘土 ②画用紙 ③折り紙 ④紙皿・紙コップ ⑤段ボール箱 ⑥木片
 ⑦木の実 ⑧落ち葉 ⑨空き箱（牛乳パック等） ⑩その他の素材[]
 用具①のり ②セロハンテープ ③ガムテープ ④木工用ボンド ⑤ホットボンド
 ⑥ボザキス ⑦はさみ ⑧段ボールカッター ⑨カッター ⑩金槌
 ⑪のこぎり ⑫その他の用具[]
 活動①紙あめ ②紙漉き ③布染 ④焼き物
 その他、自由にご意見・感想等をお書きください。

 お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

県内中心に計6園の幼稚園、保育所で5歳児を対象として行ったものである。

平成25年度		
	ホットボンド使用	ホットボンドと金槌使用
A 幼稚園	10月	11月
B 幼稚園	11月	12月
C 保育園	10月	11月
D 保育園	10月	12月
E 保育園	12月	

平成26年度		
	ホットボンド使用	ホットボンドと金槌使用
A 幼稚園	12月	
B 幼稚園	11月	
F 保育園	1月	

※平成26年度それぞれ月1回の活動

3-1 平成25年度 ホットボンドによる木工活動とアンケート結果

〔ホットボンドによる木工活動の様子〕

※素材は自然物と枝等が中心

※どの園においても材料は自分で選ぶ。



年度毎に各園で木工活動を行った後、活動に関した素材や道具の使用において、どのように捉えたのかについてアンケート調査を行った。園の予定により活動がホットボンドでの活動で終わった園と、2回目の金槌を使用した木工活動を行った園がある。

(3) 調査1と2を基に活動の状況と環境構成に対する保育者の捉えを考察

幼児の遊びの様子を見ながら、木の実や木片等の素材と用具の有効性と可能性における保育者の環境構成の考え方について分析を試みる。また保育者の意見を参考にしながら身近な素材としての木の実や木片を使った保育活動を通して教材の可能性を提示する。

3. 木工活動の様子とアンケートの結果

この木工活動は、平成25年度にホットボンドによる木工活動を行った園が5園で、引き続き金槌による木工活動を行った園が4園になる。

平成26年度は、平成25年度に引き続きA園とB園での木工活動を行い、F園が初めてのホットボンドによる木工活動を行った。



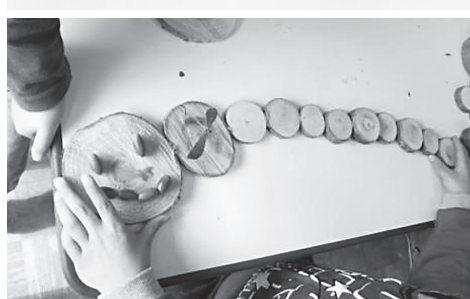
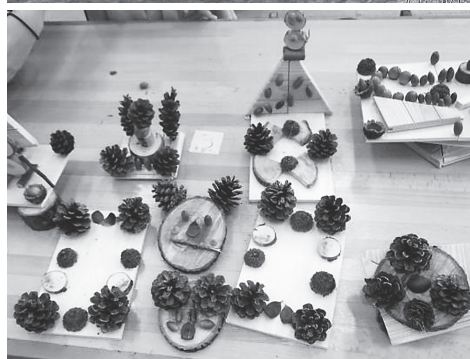
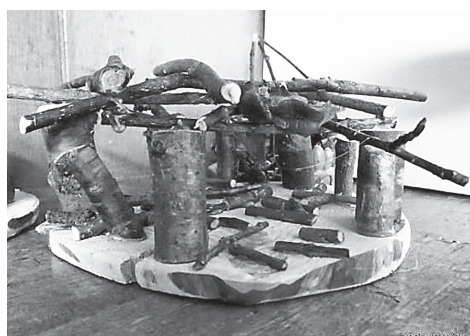
※担任と相談しながら幼児が自分で操作できる幼児は自分です。



※状況を見ながら学生が援助する。



[ホットボンドによる木工の作品例]



木の実や廃材をその都度準備して行っているため、園によって多少材料が異なる。

活動時間は1時間から2時間を想定していたが、実際は70分から90分と園の状況に合わせて行った。

材料の使い方については、幼児が材料を見て使いたい材料を必要な分だけその都度持って行って、何を作ってもよい、持って行った材料を使わなかったら戻すことを伝える。

使いたい材料を持って行って少しずつ製作のイメージが持ててきたところで道具の使い方について説明する。ホットボンドの火傷について注意を促し、金槌や釘の扱い方に注意すること伝え、道具を使用しての製作を開始する。

子どもたちは、普段見慣れている木の実ではあるが、製作の材料としたことはほとんどなかったようで、多少戸惑いながらも材料を重ねたりつなげたりしながら活動が始まっていった。ある程度作り上げたいイメージがあって作り始める子もいれば、取りあえずホットボンドで素材と素材をくっつけてみて道具を使うのを楽しんでいる子おり、個々様々な様子だった。

(1) 平成 25 年度ホットボンドによる 木工活動のアンケート結果

このホットボンドによる木工活動を行った園は次の5園であり、アンケートにご協力いただいた保育者の数は20名である。

ホットボンドによる木工活動を行った園		
対象園	活動時期	アンケート回収有効数
A幼稚園	平成 25 年度 10 月	5 名
B幼稚園	11 月	5 名
C保育園	10 月	4 名
D保育園	10 月	3 名
E保育園	12 月	3 名
計 5 園		計 20 名

保育者が幼児のホットボンドによる木工活動の様子を振り返りどのようなことを考えていたのかをアンケート結果から探る。

質問の内容と回答結果は次の内容である。

(1) 1 回目のホットボンドによる木の実や木片の木工活動は、子どもたちにとって適していたでしょうか。

- ①非常に適していた
 - ②まあまあだった
 - ③合っていなかった
- その理由をお書きください

この項目に記入されていた保育者は19名であり、それぞれどのように考えていたのか、については次のような結果だった。

選択の解答	回答数
①非常に適していた	16
②まあまあだった	3
③合っていなかった	0

それぞれの園の保育者は同じ解答だったので園毎に意見として捉えたと次のようになる。

選択の解答	回答数
④非常に適していた	4
⑤まあまあだった	1
⑥合っていなかった	0

まず、「①非常に適していた」と答えていた理由としては、次の内容である。

※保育者の表示は、A・B…仮園名で、幼：幼稚園、保：保育園、5・4は5歳児4歳児で主は主任、教は教頭、副は副園長、園は園長

保育者	「①非常に適していた」と答えた理由
A 幼 5	ホットボンドは、簡単につけることができ、早く乾くため、出来上がりが子どもにすぐ手にできる。
A 幼 4	園にある木の実や松ぼっくりを使って遊んでいる子どもたちにとって、ホットボンドを使って自分のイメージしたものを形にできる面白さや出来上がった喜びを感じていた。
A 幼 3	子どもが扱いやすい材料の大きさ、いろいろな素材に触れられることができる為。
A 幼 他	すぐ乾いて作りやすい。
B 幼 5	自分でつけたい所に付けられること。すぐにくっつく様子が、子どもたちにとって楽しかった様子だった。

B 幼 3	年長さんなので、形や素材を組み合わせ、いろいろな物をイメージしたり見立てたりできたと思います。くっつけたい所にすぐにくっつくのがすごいと思いました。
B 幼 3	一人ひとり工夫しながら楽しそうに取り組んでいたと聞き、それが作品に表れていると思います。
B 幼 主	製作しやすく、素材が沢山用意してあって、子どもたちのイメージが広がったのではないかな
C 保 4	普段目になっている まつぼっくりや枝などが、使い次第で素敵な作品になることができるということを知ることができた。
C 保 主	使用上の注意等はあるけれど、簡単に思いのまま作っていただけるので良かった。材料も木の実や木片だったので。
E 保 主	前にも一度経験があるが、一人1台あたりの自由な使用ではなかったので、今回思いっきり好きなように作ることができたようだ。(使用制限がなかったのだ)
E 保 他	楽しそうに製作していました。(他の園で)ホットボンドを使った経験もあって、要領よく使っていた子もいました。

E 園では、5 歳児がこの木工活動の1～2 か月前にホットボンドを使ってリース作りを行った経験があった。他の園では個人的に使ったことがある子もいたが、クラスとしてホットボンドを使用するのは初めてであった。

保育者の意見として、ホットボンドは、操作が簡単であり、接着剤として速乾性と立体物の接着にすぐれている道具なので、幼児の「このようにやってみたら…」「このようにやってみよう」という今の思いつきに即対応できること、また木の実やいろいろな木片の素材があって良かったことが挙げられている。

一方「②まあまあだった」と答えたのは、D 保育園であり、その保育者の理由としては次のようなものであった。

保育者	「②まあまあだった」と答えた理由
D 保 5	上手に使える子もいたが、何人かはやけどをしていた子もいたので、使用するには少し危険かなと思いました。
D 保 5	説明はきちんとあったが、やはりやけどをした子がいたため。

D 保 主	(大学の)先生と学生さんに来ていただき、園の職員3名がついての20名の園児の活動でした。素材もよく、新しい活動で、子どもたちも喜んでいました。ただ、ハサミ、のりの活動から一足飛びにホットボンドの活動となり、ボンドで火傷した子も出てしまったので、もう少し段階をふんだり、経験させてから進めればよかったと思います。ただ、子どもたちは十分満足し、保護者の方も喜んでいました。
-------	--

この園の保育者は、火傷による安全面による問題を挙げており、「D 保主」の保育者も段階を踏まえた経験が必要ではないかということを目指している。

この活動を行うにあたり、筆者と学生4～5人で活動の補助に付き、どの園においても保育者も含めると1クラス30人以下の子どもたちに6～7人の大人がかかわっており、4～5人の子どものために1人大人がかかわっていた状況で行われた。

しかし、D 保育園に限らず小さな木の実や木片を使用する際、ホットボンドの「ノリ」やノリが出てくる器具の口に触れて火傷してしまう子がいた。

安全面と子どもたちの経験の積み重ねの必要性についての意見が書かれていた。

(2) ホットボンドによる木工活動について 保育活動としての希望

(2) 「このようなホットボンドによる木の実や木片の木工活動は、今後園でもやってみたいと思いますか」

- ①非常にやってみたいと思う
- ②どちらともいえない
- ③特にやってみたいと思わない

回答があった保育者は20名である。

選択の解答	回答数
①非常にやってみたいと思う	17
②どちらともいえない	3
③特にやってみたいと思わない	0

どちらともいえないと回答した保育者は、同じ園の保育者となっていたので、園単位で見ると以下のようなになる。

選択の解答	回答数
①非常にやってみたいと思う	4
②どちらともいえない	1
③特にやってみたいと思わない	0

（1）で①と答えた園は（2）の質問で①、（1）で②と答えた園は（2）の質問で②、という解答になった。これらの答えた理由として（3）で取り上げている項目に表れていると考える。

（3）ホットボンドによる木工活動の 保育活動としての希望と課題

さらに（3）このようなホットボンドによる木の実や木片の木工活動について、行う上での注意や課題として考えられることについて質問した。

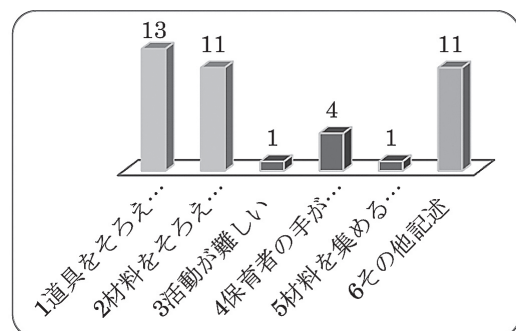
問としては、以下の6つの答えに対し、内容に該当するものに全て○を付けていただくようにした。

（3）このようなホットボンドでの木の実による木工活動について、以下の内容に該当するものに全て○を付けてください。

- ①道具をそろえてやりたい
- ②材料をそろえてやりたい
- ③活動が難しいと思う
- ④保育者の手が必要になるのでできないと思う
- ⑤材料を集めるのが大変そうなのでやるのは難しいと思う
- ⑥その他何かありましたらお書きください

〔ホットボンドによる木工活動について〕

個々の保育者が選んだ項目ごとの回答数



この（3）の質問で「③活動が難しいと思う」が1名おり、「④保育者の手が必要になるのでできないと思う」と4名の保育者が答えていた。このことは「ホットボンド」を使用する際に安全に扱うためには補助する保育者又は大人の手が必要だと感じている。⑥のその他の記述の中でも「個人差に応じて使用すべき」、「親子活動であればよいのでは」という意見が記述されていた。

保育者	⑥の内容
D保5	①・⑥製作活動にもできないの個人差があるので、その子一人ひとりの成長に合わせて活動に工夫していく。
D保主	⑥親子の活動に取り入れてみてはどうかと思いました。

他に1名の保育者が「⑤材料を集めるのが大変そうなのでやるのは難しいと思う」と答えている。

また、（2）「①非常にやってみたいと思う」と答えている園の先生方は、ほとんどの解答に「①道具をそろえてやりたい」か「②材料をそろえてやりたい」のどちらか、又は両方を選んでいるが⑥の記述の内容をみると次のような意見が述べられている。

保育者	⑥の内容
A幼5	①② ⑥道具や材料をそろえたいと思うが、難しいのは保育時間の中での活動時間のやりくりや子どもたちの材料、素材集めをどうするか…ということ。
A幼4	② ⑥保育者の手が多くないとできないと思われる。少人数ずつでやるのであれば、保育者の援助は少なくてもいいと思いますが…。
B幼5	② ⑥素材をそろえるのが難しく、なかなかできないこともあった。子どもたちが作りたいと思った時に、物があればいいと思います。
B幼4	⑥材料集めから楽しんで（散歩等）気軽に製作を楽しめると身近な活動になって面白そうだなと思う。
B幼3	①② ⑥補助してくださる方（学生さんなど）が沢山いるとできると思います。
B幼3	①② ⑥ホットボンドの使用時には、保育者のかかり方や人数等工夫しながら行えばできると思います。
B幼主	⑥補助してくださる人がいれば助かります。

C保主	①② ⑥機会があれば、材料等がそろえられたら、いろいろな形で取り組めると思われる。
E保主	① ⑥今日は材料や用具を用意してもらった中で楽しめたが、自分たちが計画を立てて行うとしたら不得意な分野にて一歩下がってしまいそうです。

ここでの意見にも幼児の援助をする人手が必要とする問題と木工活動を行うまでの準備に費やされる手間や時間がかかることを問題にしている。

人手がかかるので難しいとする④の解答と、材料を集めるのが大変なので難しい⑤の解答した保育者の意見は、状況として木工活動を行うことが難しいと判断している。

保育の中で今回のホットボンドによる木工活動を考えた場合、

A	安全に対する課題
B	木工活動を行うまでの準備に費やされる時間の課題

という2つの課題があるということが見えてきた。

(4) ホットボンドによる木工活動での 取り組み感想等

(4)「このホットボンドによる木工活動で、子どもたちの取り組みの様子をご覧になって気付かれたこと、感想等をご自由にお書きください。」という問いで書かれたものが次の内容である。

保育者	(4) ホットボンドによる木工活動の感想等
A幼5	日頃の保育者の環境に向ける意識の高まりが大切だと思われる。
A幼4	年長の作品を見て、4歳児の子どもたちも興味をもってみていました。
A幼3	同じ素材でもひとり一人の子にとってイメージするものや作りたい形が違い、製作意欲を感じる。
A幼他	使ったことのない道具に触れてみるのは、良い経験になったと思います。
A幼他	初体験の子が多かったと思うが、自然物を利用して楽しそうだった。教師も楽しく取り組めて良い教材と思う。

B幼5	一斉ではなく、やりたい子興味を持っている子があそびの中で（十分に時間がある時）できれば、もっとこったものが作れそうだったという子もいた。
B幼4	すごくみんな楽しそうで、宝物を見せてくれるように出来上がったものを紹介してくれました。
B幼3	出来上がったものを見ただけですが、自然の素材を使っているので温かみがあり、いろいろな形ができて面白いと思います。
B幼3	強い関心を向けて取り組み、想像力を働かせて製作活動ができると思います。
B幼主	出来上がりを見て楽しく製作したのが伝わってきました。
C保5	素材に触れることを楽しんでいたと思います。地域がなかなか散歩にも行けず、自然物に触れることができなかったの…。また、「こんなところにはるの？」とうようなびっくりする要求にもホットボンドがあったので答えることができたと思います。いつも使っているのりやテープ以外にも活用できる道具や素材がたくさんあるんですね。子どもたちの「やってみたい」に答えるために、私たち保育者もいろいろ道具や素材を知って勉強しなければ、と感じました。
C保4	初めての経験で、子どもたちとても楽しんで作品を作っていました。性格や個性が表れていました。保護者の方にも好評でしたので良かったです。
C保主	日常的に散歩することが少なく、自然物と言えば園庭の桜、イチヨウの葉でのままごと遊びとなっている。4歳5歳であれば自分たちで材料を集めてできるとまた楽しさや意欲が違ふと思われるが…。自然物（材料）がたくさんある中から選び『作る』ことが十分に楽しめていたので、良かったと思います。時間がたつにつれて想像力も雰囲気も盛り上がり、目が輝き、取り組み姿を見ることができ、こんな機会を作っていただきありがとうございます。
D保5	使い慣れてくれば、上手に使うことができるかなと思いました。やはり、不器用な子もいるので普通のボンドもあればよいのかなと思いました。
D保5	ホットボンドを使用したのは初めてでしたが、たくさんの木の実や木片を選んで自由に製作することをとても楽しんでいました。
D保主	子どもたちの発想の豊かさに改めて気づかされました。危ないかなあと感じたホットボンドも、先生さんたちの手助けでスムーズに使える子もいて、使えることにも気づかされました。木のぬくもりを子どもたち自身が感じ、においや肌触りを楽しんでいた姿が印象的でした。人工的なものに頼りがちですが、身近な自然物をもっともっと使い、感触を味あわせていきたいと思いました。

E 保主	初めは緊張していたようだが、学生さんたちの笑顔にほめて楽しく行えたようでした。一人一人のアイデアが生かされて、そして完成したものに満足の表情はとてもうれしいものでした。指先を火傷した子もいましたが、何事も経験し勉強していくものと思います。様々な道具を使うことをもっと経験させたいと思いました。
E 保他	熱さがあるホットボンド、火傷につながると思うと怖くてなかなか子どもたちに触れさせる機会がありませんでしたが、怖がらず、意欲を持って使っている子どもたちの姿を見て、やらせてみるのも経験だな…と感じました。

子どもに対し、ホットボンドという用具と木の実や木片等の素材を使って自由に製作できる環境構成を提示して行った活動により、保育者の感想等を整理すると、

C	この活動を通して子どもがそれぞれ自由に表現していたこと、その子に応じた表現がみられたこと
D	「ホットボンドの用具やいろいろ選べる自然物等の素材」が子どもの表現を支える環境構成になっていたこと
E	安全に扱えるためには、失敗する経験や段階を追った経験が必要ではないかということ

という内容にまとめられるであろう。

多くの保育者が「ホットボンドの用具やいろいろ選べる自然物等の素材」等の環境の構成を行うことにより、子どもが意欲的に個々に応じた表現する活動として有効であると考えていると言えよう。

保育者の意見の中で、筆者が興味をもったものとして「5歳児が行っていた活動を4才児の子どもたちが興味を持って見ていたこと」という意見があった。活動に参加していなくても年長児が行っている姿を見たという経験が長い目で考えたとき、その活動をやってみたいという動機、導入になりうることである。

また、「4歳5歳であれば自分たちで材料を集めてできるとまた楽しさや意欲が違ふと思われるが…」という意見などは「ホットボンドを使った木工活動」を1～2時間の体験として終わらせるのではなく、身近な環境に目を向けていくことで、「…自分たちで材料を集め」ることにより「楽しさや意欲」が高まり、いろいろな経験が得られたり表現の方法が広がったりする可能性のあることなど、保育の大切な視点で

あると考える。このことを先ほどの保育者の意見としてのまとめにFとして加えたい。

F 1つの活動から多様な経験を得られ、表現の深まりを考えた保育活動を展開すること

3-2 平成25年度 釘や金槌による木工活動とアンケート結果

ホットボンドによる木工活動の経験あとの金槌による木工活動が行えた園は次の4園となり、アンケートに答えていただいた保育者の数は16名であった。

金槌による木工活動を行った園		
対象園	活動時期	アンケート回収有効数
A 幼稚園	平成25年度 11月	5名
B 幼稚園	12月	5名
C 保育園	11月	3名
D 保育園	12月	3名
計4園		計16名

〔金槌による木工活動の様子〕

※新たな素材として板状の物、角材等を準備
※板の厚さと釘の長さを比較している。



※足で木片を押さえる。



※ホットボンドも併用する。

※基本的に保育者・学生等の援助者は見守るか押さえてあげるなどの援助

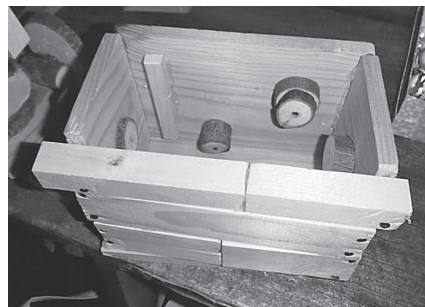
※一つの穴に15本の釘を打ちこむ。

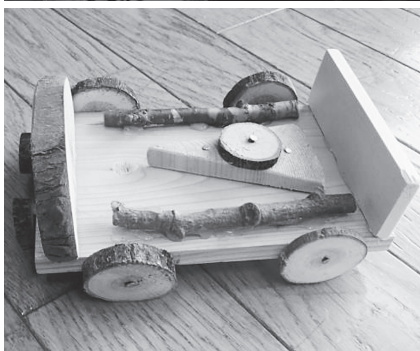
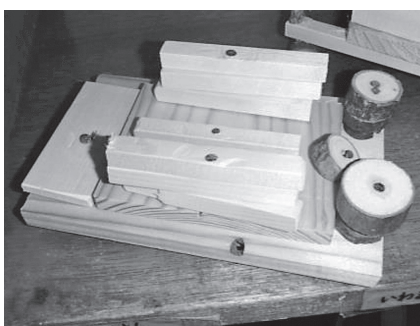


※幼児同士お互いに手伝い合いながら行っている幼児の姿も見られた。



[金槌による木工の作品例]





（1）金槌による木工活動の印象

保育者が、金槌による木工活動を行い幼児の様子を振り返りどのように考え、捉えていたのだろうか。

実際に金槌を使って活動した園は4園であり、回答のあった保育者は12名であった。

（1）この釘や金槌による木工活動は、子どもたちにとって適していたでしょうか。

- ①非常に適していた
 - ②まあまあだった
 - ③合っていなかった
- その理由をお書きください

選択の解答	回答数
①非常に適していた	7
②まあまあだった	7
③合っていなかった	0

その答えた理由として記入されたものを取り上げるとつぎのような回答であった。

保育者	①を選択した答えの理由
A 幼3	その後、自由遊びでも釘や金槌を使って楽しむ経験をしていた。
A 幼他	サイズも丁度いい
C 保主	今まで自分が思うように釘や金槌を使う経験のなかったと思われる。

保育者	②を選択した答えの理由
A 幼4	年長組で秘密基地を作ろうと金鎚などを使っていたので、子どもたちがまさに使っていた道具だったと思います。ただ全員が遊びで使っていたというわけではないので②と回答しました。
B 幼5	経験としては良かったと思います。しかし、初めての経験だったので、1対1の対応が必要になってくるかなと思った。釘打ちはホットボンドより丈夫な物ができ達成感が感じられると思うのでこの経験もさせたいと思う。
B 幼3	使い慣れていない難しさはあったかもしれませんが。
B 幼主	継続できるとよいですね。
D 保主	はじめは心配もありましたが、けがもなく活動することができました。テーブルに釘を打ち付けてしまうことがあり、環境を整える必要があったと思いました。

A 幼稚園では、自由な遊びの中で金槌を使用した活動も取り入れており、半数近くの幼児が金槌を使用していたという状況にあった。他の園については初めての経験であった。

全体的に見て、金槌を使っの木工活動の場合、「①非常に適していた」が7名、「②まあまあだった」7名だった。

ホットボンドの時は「①非常に適していた」が16名、「②まあまあだった」3名だったのに対して、非常に適した活動であるとする保育者が減った。①②それぞれの理由を見ると、ホットボンドの時のように火傷等の安全面で問題視している回答がなかったが、金槌を使う経験の有無について触れられている。

(2) 金槌による木工活動について

保育活動としての希望

金槌を使った木工活動後の保育への期待はどのような物であったのかについては次のような内容であった。

(2) このような釘や金槌による木工活動は、今後園でもやってみたいと思いますか。

- ①非常にやってみたいと思う
- ②どちらともいえない
- ③特にやってみたいと思わない

選択の解答	回答数
①非常にやってみたいと思う	11
②どちらともいえない	5
③特にやってみたいと思わない	0

①の「やってみたい」していると答えている保育者が11名、②の「どちらともいえない」が5名であり、金槌を使用しての木工活動に対する関心も比較的高いことが伺える。

(3) 金槌による木工活動の

保育活動としての希望と課題

さらに金槌による木の実や木片の木工活動について、行う上での注意や課題として考えられることについて質問した。問としては、以下の6つの答えに対し、内容に該当するものに全て○を付けていただくようにした。

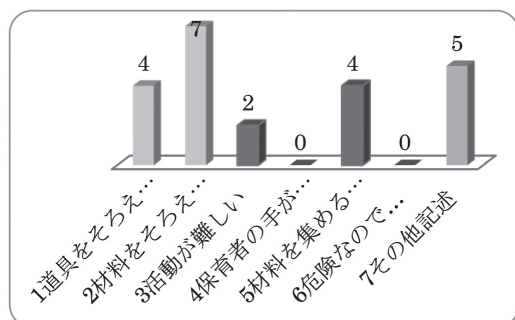
(3) 釘や金槌による木工活動について、以下の内容に該当するものに全て○を付けてください。

- ①道具をそろえてやりたい
- ②材料をそろえてやりたい
- ③活動が難しいと思う
- ④保育者の手が必要になるのでできないと思う
- ⑤材料を集めるのが大変そうなのでやるのは難しいと思う
- ⑥危険なので幼児に適していないと思う
- ⑦その他何かありましたらお書きください

その結果を集計したものが次のグラフであり、「⑦その他について記述」されていたものについては以下の表に書き出した。

[金槌による木の実や木片を使った木工活動]

個々の保育者が選んだ項目ごとの回答数



保育者	⑦の内容
A 幼 4	②③ ⑦保育者の手が必要
A 幼 3	①② ⑦年少では難しいが、年中・年長での経験が望ましいのではないかと思った。
A 幼 他	①② ⑦常に活動できるよう準備しておきたい。
B 幼 3	①② ⑦補助して下さる方がホットボンドより必要になるかもしれません。
C 保 園	⑤ ⑦様々な体験が良いと思うが、大人の手が必要なので大変難しい。
D 保 主	⑦保育者の数を多めにしたり、親子での活動で取り入れていきたい。

実は筆者は、保育者がホットボンドより金槌の方が、幼児が使用する際に保育者は危険と考えるのではないかと思います。ホットボンドの所ではなかった項目「⑥危険なので幼児に適していないと思う」を加えた。単純には比較できないが、ホットボンドの使用では、「火傷」の危険性について触れられている点が何例もあったのに対し、金槌での記述では具体的に危険性について記されていない。ただ、やはりホットボンドの時と同様に保育者又は援助者の手助けより必要だと感じている。これは幼児の金槌を扱う際の危険性よりも操作性において「難しい」と考えているのではないかと思います。

(4) 金槌による木工活動での取り組み感想等

(4)の質問では、この金槌による木工活動で、子どもたちの取り組みの様子を見て気付かれたこと、感想等を自由にお書いていただいた。

(4) この釘や金槌による木工活動で、子どもたちの取り組みの様子をご覧になって気付かれたこと、感想等をご自由にお書きください。

保育者	(4) 金槌による木工活動の感想等
A 幼 5	日頃の保育者の環境に向ける意識の高まりが大切だと思われる。
A 幼 3	最初、道具の使い方から知り、何度も経験することで楽しんで安全にできるのではないかと思った。
A 幼 他	今まで全員でしたことがなかったので是非また活動したい。
B 幼 5	人の手が欲しかったのと、継続した経験ができればなと思いました。
B 幼 3	出来上がったものを見ただけですが、何度かやっているうちに子どもたちも上手になっていくと思います。
C 保 5	意外に怖がらずに積極域に金槌を使っていたので驚きました。また、使い方も器用で、上手に使っていました。「金槌の平らなところで打ってね」と伝えたことを子どもたちはしっかり頭に入れて、その都度確認しながら使っていました。興味があることややってみようという姿が見て取れました。
C 保 主	最初材料を手にながら戸惑っていたようだが、まわりを見ながら、不安そうに取り組んでいた。1つ始めると、次々に創造性が広がりが一人ひとり楽しんでいし、道具も思っていた以上に上手に使いこなしていたので驚きました。私もやりたかったです。
C 保 園	子どもたちがとても生き生きと楽しそうな姿が見られた。危険だけれども集中する体験は良い思い出になり、今後の活動に大きな影響を与えていると思います。
D 保 5	使い方を知らせると一人でできる子もいたが、初め釘を刺すところが難しいようでした。しかし、これも経験としてやってみるのはとても良いと感じました。
D 保 5	釘や金槌を使用するのも初めてで、手を打ってしまうのでは少し心配もありましたが、意外と使用できていて、驚きました。
D 保 主	予想以上に子どもたちが上手に道具を使い、取り組んでいました。一斉活動ではなく、少人数でやるなど、方法を考えれば園でも取り組めるのではないかと思います。けがのこともありますが、十分な配慮が必要だと思います。

金槌による木工活動では、ホットボンドを併用しながらの活動であったが、最終的にはほと

んどの幼児が金槌に関心を示し金槌を使っていた。しかしながら、A幼稚園以外の園では木工活動をほとんど行った経験がなかったので、保育者は幼児が金槌を使えるのかどうか不安に思いながら幼児の活動の様子を見守るといった様子が伺えた。幼児が金槌を使っていくうちに徐々に慣れていくのを見て、何度か経験していくうちに扱えるようになって考えている保育者も多かった。

幼児の意欲的に活動に取り組んでいる様子を見て、保育者は、活動自体は肯定的にみながらも、金槌を使つての表現活動が適正かどうかの判断がつかない様子が伺える。

4. 木工活動を行った園の保育者の製作的な素材や道具を使用状況

アンケートの最後の問いとして、保育者が保育活動でどのような製作的な素材や道具を使用しているのかについて答えていただいた。

3. 子どもたちが制作的な活動で、以下の道具や素材を使つたことがあるもの、やったことのある活動に、全て○を付けてください。

〈素材〉

- ①粘土 ②画用紙 ③折り紙
④紙皿・紙コップ ⑤段ボール箱
⑥木片 ⑦木の実 ⑧落ち葉
⑨空き箱（牛乳パック等）
⑩その他の素材 []

〈用具〉

- ①のり ②セロハンテープ
③ガムテープ ④木工用ボンド
⑤ホットボンド ⑥ホチキス ⑦はさみ
⑧段ボールカッター ⑨カッター
⑩金槌 ⑪のこぎり
⑫その他の用具 []

〈活動〉

- ①紙染め ②紙漉き ③布染 ④焼き物

特に今回の活動に関係しているものを取り上げたのが次の表である。

〔自然の素材と木工で使われる素材・用具〕

	6 木 片	7 木 の 実	8 落 ち 葉	4 木 工 用 ボ ン ド	5 ホ ッ ト ボ ン ド	10 金 槌	11 の こ ぎ り
A 幼 5	○	○	○	○	○	○	○
A 幼 4		○	○				
A 幼 3		○	○	○	○	○	○
A 幼 他	○	○	○	○			
A 幼 他							
B 幼 5	○	○	○	○	○	○	
B 幼 4		○		○			
B 幼 3		○	○	○			
B 幼 3		○		○			
B 幼 主	○	○	○	○			
C 保 5		○	○	○			
C 保 4					○		
C 保 主		○	○	○	○		
C 保 園	○	○	○	○	○		
D 保 5		○	○	○			
D 保 5		○	○				
D 保 主		○	○	○			
E 保 主	○	○	○	○			
E 保 他	○	○	○	○	○		
E 保 副 園		○	○	○	○		
F 保 5		○		○			
F 保 主	○	○	○	○	○		
計	8	20	17	18	9	3	2

保育者が次の素材や用具を保育で使用したことがあると答えたのは、「木片」8名、「木の実」20名、「落ち葉」17名、「木工用ボンド」18名、「ホットボンド」9名、「金槌」3名、「のこぎり」2名であった。

「木の実」20名、「落ち葉」17名で、比較的多く使われている。保育では身近な素材ということができる。木片になると半分以下になっている。

接着剤として使われる「木工用ボンド」は18名、「ホットボンド」9名と木工用ボンドは良く使われているがホットボンドになると半数以下になる。木工用ボンドは、木の実や葉を台紙等に貼ったり松ぼっくりに他の素材を張り付

けたりするのを見かける。ただその際、木工用ボンドが乾くのに時間がかかり、数日にわたっての活動になるか、又は製作部分の仕上げとして装飾的なところに使用されることが多い。

ホットボンドの使用に関しても半数弱の保育者が使用したことはあるが、感想等からもうかがえるように自然物や木片等を組み合わせての製作活動としての木工活動は行われていないことが分かった。

金槌に関しては3名のみであり、ほとんどの保育者が保育で使ったことがないとしている。

5. ホットボンドと金槌による木工活動についての考察

3-1の「ホットボンドによる木工活動とアンケート結果」のまとめで、C「この活動を通して子どもがそれぞれ自由に表現していたこと、その子に応じた表現がみられたこと」D「ホットボンドの用具やいろいろ選べる自然物等の素材が子どもの表現を支える環境構成になっていたこと」として、保育の教材として一様に良い評価が得られる。ただしA「安全に対する課題」が挙げられ、解決策として「援助者を増やすこと」又は「少人数毎の幼児の活動にすること」で状況に応じた対応ができるようにすることの意見が出されていた。もう一つの意見として、経験の積み重ねにより、幼児自身の危険に対する判断力を育てていくことである。

一方、3-2の「釘や金槌による木工活動とアンケート結果」の「(4) 金槌による木工活動での取り組み感想等」のところでは、ホットボンドのようにA「安全に対する課題」が具体的に挙げられていないにもかかわらず、幼児の製作的な活動の用具として金槌の使用が適当かどうかの判断がつかないようなところがあった。

このことは、4の「木工活動を行った園の保育者の製作的な素材や道具を使用状況」において、保育で金槌を使用したことがあると答えた保育者は3名のみであり、ほとんどの保育者が保育で使ったことがないとしている。保育者が、金槌が幼児の製作用具として適当かどうか判断する以前に、保育者自身が保育で金槌を使ったことがないので判断がつかないのではな

いだろうか。

(2)の「このような釘や金槌による木工活動は、今後園でもやってみたいと思いますか。」の質問に「②どちらともいえない」と答えた保育者の中で、保育で金槌を使用したことがある[B 幼5]保育者は「経験としては良かったと思います。しかし、初めての経験だったので、1対1の対応が必要になってくるかなと思った。釘打ちはホットボンドより丈夫な物ができ達成感が感じられると思うのでこの経験もさせたいと思う。」と答えている。道具としての不適切というより、保育者の援助の体制が課題であると考えられる。

幼児の製作活動においてC「…子どもがそれぞれ自由に表現して…」D「ホットボンドの用具やいろいろ選べる自然物等の素材が…表現を支える環境構成…」として木工活動が有効な教材となるためには、A「安全に対する課題」の解決策として「援助者を増やすこと」又は「少人数毎の幼児の活動にすること」などの対応を考えていくこと必要である。

Bの「木工活動を行うまでの準備に費やされる時間の課題」については、どのような保育の位置づけで考えるのかで対応が異なってくるであろう。保育の「ねらい」として、自分たちで素材を集めたり準備したりすることもこの活動の大事な経験とするのか、もっと別の活動が有効であると考えられるのかは保育者の考え方次第であろう。

この課題に対し、3-1の(4)の「ホットボンドによる木工活動での取り組み感想等」のところでは、Fの「1つの活動から多様な経験が得られ、表現の深まりを考えた保育活動を展開すること」が保育のねらいとしてあげられるのであれば、これらの活動がもっと有効な教材になっていくと考える。

6. 平成25年度の課題に対する改善の試みと平成26年度の木工活動の結果

平成25年度の課題として挙げられたA「安全に対する課題」が挙げられていた。

平成26年度の木工活動を行う際、平成25年度のアンケートの保育者の意見では「援助者を

増やすこと」又は「少人数毎の幼児の活動にすること」であったが、今回の改善策としては、用具に幼児用の軍手を準備することで「火傷」の危険性が少なくなると考えた。学生の補助として、前年度と同様に3～4名の参加体制で行った。

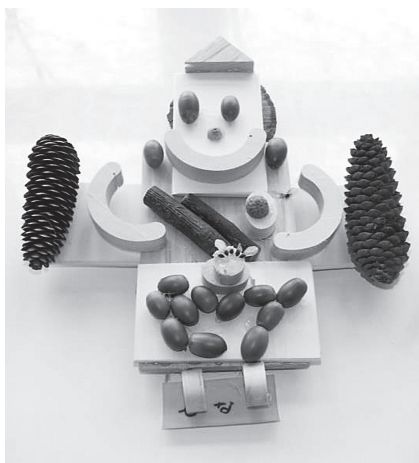
〔ホットボンドによる木工活動の様子〕

※軍手を使用しての木工活動

※学生は立体物の状況に応じてアドバイスする。



〔ホットボンドによる木工の作品例〕





この年の対象園は、A幼稚園とB幼稚園と、この年始めて木工の活動を行うF保育園の3園になる。前年度同様に、保育者が幼児のホットボンドによる木工活動の様子を振り返りどのようなことを考えていたのかをアンケート結果から探る。質問の内容と回答結果は次の内容である。

- (1) 1回目のホットボンドによる木の実や木片の木工活動は、子どもたちにとって適していたでしょうか。

- ①非常に適していた
②まあまあだった
③合っていないかった
その理由をお書きください

この項目に記入されていた保育者は11名であり、全てが①の回答で次のような理由が書かれていた。

保育者	「①非常に適していた」理由
A幼5	年長児にとって「気を付けて使う」「扱い方を考える」という意味に必要な経過だと思いました。
A幼3	子どもたちが夢中になって長い時間でも作り込んでいたため。
A幼他	ホットボンドも使いやすく、こどもでも簡単に使える。
A幼他	すぐに接着するところが使いやすく、次の活動にもつながりよいと思う。
A幼教	扱いやすかったと思います。
B幼5	子どもたちが自分でつけたい所に、自分で付けていたから。自分だけで…はまだ難しいけれども。(安全面で)
B幼3	年長児にとって「気を付けて使う」「扱い方を考える」という意味に必要な経過だと思いました。
B幼3	活動の内容を理解して取り組むことができていたようだったから。
B幼教	一人ひとりの工夫が作品に表れていて、付けたい所にすぐに固定できるホットボンドは面白いと思った。

今回は安全のために幼児用に軍手を使用したことで、ホットボンドの長所である速乾性に加え、幼児が自分で思った時に思ったように試してみることができるようになり、より自分で道具を操作してできることの楽しさが加わったためと考えられる。

今年初めて取り組んだF保育園も、活動の状況を伝えたと、積極的に幼児にホットボンドを使わせたいということで自由に使って製作活動を行っていた。保育者〔F保5〕は、「自分でつけたい所に付けられること。すぐにくっつく様子が、子どもたちにとって楽しかった様子だった。」と答えている。

2年目のA幼稚園とB幼稚園の保育者の感想をしてみる。

保育者	A・B園のホットボンドによる木工活動の感想
A幼5	日頃一斉活動で集中できる時間はせいぜい1時間程度ですが、木工は2時間近く楽しめました。自然物の魅力が子どもたちに伝わり、楽しめたのだと思います。

A 幼 3	同じ素材を使っても、一人ひとり全く違う作品になり、自然物ならではの温かみを感じました。今後も木工活動を通して、自然物に触れながら子どもたちが自由に表現する機会を作っていただけたらと思います。
A 幼他	普段、なかなか触れることのないホットボンドに興味をもってのめり込んで取り組んでいた。
A 幼他	夢中になって取り組む姿があり楽しそうだった。
B 幼 5	1時間はあっという間でした。そのくらい、子どもたちも集中して楽しんでいました。
B 幼 4	出来上がった作品を見た4才児の子どもたちも「すごい」と興味津々でながめていました。
B 幼 3	素材を組み合わせ、何かに見立てたりするのが楽しそうでした。ホットボンドは、くっつけたい所にすぐにくっつけられるのが良いと思います。
B 幼 3	それぞれ自分のやりたい思いを表現して、楽しそうに取り組んでいたと聞いてよい活動だと思う。
B 幼教	子どもの興味関心は、高いと感じた。継続できるように環境を整えてあれば想像豊かに製作活動が行えるのではないかなと思う。しかし、安全面での十分な配慮が必要になるので安易にはできないだろう。けれど十分に保育に生かせる教材であると思う。 大変楽しい時間を子どもたちは過ごせたようです。素材集めの参考になりましたし、よいきっかけをつくってもらいました。できれば開催時期を秋にしてもらえると、季節の活動にもつながり、保育中に深める期間ができるのではないかなと思います。

保育者	F 保育園のホットボンドによる木工活動の感想
F 保 5	子どもたちの発想力は、無限なのだと感じさせられました。今まで、この子たちには難しいだろうと制限をかけていたけれども、もっと子どもの力を信じていろいろ経験をさせていくべきだと気づかされました。最初、悩んでいた子たちも作っていくうちにどんどんイメージが広がり楽しんで作っていた姿を見て私もとても嬉しく楽しかったです。子どもたちが1時間以上じっくりと取り組んでいたのは、とっても楽しいからだろうなと思いました。一人ひとり違って個性豊かな表現力に改めて子どもってすごいと感じました。今日の活動を参考にしていきたいです。
F 保主	環境の設定の大切さを改めて感じました。子どもたちの興味関心をしっかりと得られた活動をしていきたいものです。今回の活動を通して散歩に行った時に木の実や枝等を発見する楽しさも変化するでしょう。(保育)子どもたちの活動の広がりは無限です。継続した活動のご指導を戴ければありがたいです。

この年度も保育者の感想等にもあるように、活動も長時間にわたって意欲的に取り組んでおり、幼児の興味関心が高いことを示していると考える。

この2年目の木工活動において、安全性に対する課題については、園の置かれている環境の状況で異なるので、一様ではない。ただ今回安全性の問題からその対応として、幼児用の軍手を用意することにより、より幼児自身による用具の操作性が自由になり、幼児の表現が広がったように感じた。

以下の作品は平成26年度初めてこの木工活動に取り組んだ園児の作品であり、松ぼっくりの小さなタネを利用して花火を表現している。

※幼児の作品



援助者の手が必要というのは、もちろん安全面だけのことでなく、状況に応じた助言等も必要であり、人的な環境としてのかわり方の検討、検証を今後の課題としていきたい。

課題の2つ目として、Bの「木工活動を行うまでの準備に費やされる時間の課題」をどのように考えればよいのか。

保育者は、日常的に活動の準備等に多くの時間が割かれていると思われるが、この木工活動を行う時間のために教材準備をするとなると、そのために時間がとられると他の保育活動の準備に支障をきたしてしまう恐れがあり、負担に感じているのではないかな。

前年度のまとめとしてFとして「1つの活動から多様な経験が得られ、表現の深まりを考えた保育活動を展開すること」取り上げた。今回も「…素材集めの参考になりましたし、よいきっかけをつくってもらいました。できれば開催時

期を秋にしてもらえると、季節の活動にもつながり保育中に深める期間ができるのではないかと思います」という意見があった。

さらに「…今回の活動を通して散歩に行った時に木の実や枝等を発見する楽しさも変化するでしょう。（保育）子どもたちの活動の広がりは無尽です。…」という意見もあった。この意見についてもこれらの木工活動を通して大切な保育の意図と考えられるので、今までの保育者の意見のまとめとして

G 身近な自然や物に関心を持ってかかわるを加えたい。

このGの意識は、この活動をきっかけとしていろいろな活動と結びつき、多様な経験ができる可能性を秘めている。

6. まとめ

以上、活動後のアンケートで保育者からの意見等より、課題として度々取り上げてきた

- A 安全に対する課題
- B 木工活動を行うまでの準備に費やされる時間の課題

その他に保育者の感想・意見等をまとめて

- C この活動を通して子どもがそれぞれ自由に表現していたこと、その子に応じた表現がみられたこと
- D 「ホットボンドの用具やいろいろ選べる自然物等の素材」が子どもの表現を支える環境構成になっていたこと
- E 安全に扱えるためには、失敗する経験や段階を追った経験が必要ではないかということ
- F 1つの活動から多様な経験が得られ、表現の深まりを考えた保育活動を展開すること
- G 身近な自然や物に関心を持ってかかわること

と7つに集約してきた。

これらの7つは、ホットボンドや金槌等による木工活動を行った際の課題であったり、幼児の様子であったり、今後の保育への期待であったりしている。

今後これらのホットボンドや金槌等の道具、自然物等の材料の提示して木工活動を保育活動として取り上げる際、AからGの保育者の意見や考えを考慮して次のように整理した。

まず、この木工活動を通して保育の中で何をねらいとするのが重要である。保育者の意見を踏まえて3つを掲げた。

活動のねらい

- ◎様々な道具や素材に触れ、自分で考えて表現する楽しさを味わう。[C]
- ◎身近な自然物や木片などの廃材を利用することで、身近な自然に関心を持ち、物(用具、素材等)]を大切に扱おうとする。[G]
- ◎いろいろな経験してきたことを生かして活動に取り組もうとする。[E・F]

ねらいが達成できるように次の2つを環境構成として設定した。

環境構成

- 木工活動で幼児の表現を支えるいろいろな道具や身近な自然物等の素材」準備 [D]
- 安全に活動ができる環境構成（用具や場、人とのかかわり）[A・E]

環境構成や指導計画を立てる際に課題として挙げられていた2つの事に配慮する。

木工活動の配慮

- ・安全に対する対応 [A]
- ・木工の素材の準備や活動時間に対する活動の位置づけ [B]

これらのことを考え合わせて指導計画を作成するわけであるが、その視点となる者を2つ挙げている。

- ◇幼児の育ちや経験の積み重ねを考えた道具の使用や体験の計画 [E]
- ◇1つの活動から多様な経験が得られ、表現の深まりを考えた保育の計画 [F]

〔ホットボンドや金槌による身近な木の実や
木片を使った木工活動の保育の位置付け〕

活動のねらい	木工活動の配慮
◎様々な道具や素材に触れ、自分で考えて表現する楽しさを味わう。[C] ◎身近な自然物や木片などの廃材を利用することで、身近な自然に関心を持ち、物（用具、素材等）を大切に扱おうとする。[G] ◎いろいろ経験してきたことを生かして活動に取り組もうとする。[E・F]	・安全に対する対応 [A] ・木工の素材の準備や活動時間に対する活動の位置づけ [B]
環境構成	指導計画の視点
○木工活動で幼児の表現を支えるいろいろな道具や身近な自然物等の素材」準備 [D] ○安全に活動ができる環境構成（用具や場、人とのかわり）[A・E]	◇幼児の育ちや経験の積み重ねを考えた道具の使用や体験の計画 [E] ◇1つの活動から多様な経験が得られ、表現の深まりを考えた保育の計画 [F]

これらのことに配慮し、保育のねらいに沿って計画することで、これらの木工活動が生きた教材になると考える。

今回の木工活動は、園の協力のもとにこれらの用具と素材を持ち込んで幼児の表現活動を保育者と一緒に観察しながら、それを保育者が保育として行う場合どのように考えるかという形で行った。

保育としては、保育のねらいを提示せずに環境構成を設定して活動するということで、基本的にはあり得ない想定である。しかし、このような状況で行ったことにより、保育者の意見等を基に考察する中で、保育の意図、ねらいや環境の構成の仕方によって、この活動が必要な教材となるのかどうか問われるのではないかと考える。

保育者の感想等にもあるように、このような環境構成の中での木工活動は、幼児が長時間にわたって意欲的に取り組んでいたことや幼児の作品の状況から、5歳児の幼児の興味関心が高く、表現活動として有効な教材であるという手ごたえを感じている。

そこで次の研究の課題としては、この教材を保育の中でどのようなねらいのもとに、どのよ

うに指導計画の立てて行うことができるのか、についてである。

園の環境や保育の目標等にそって、ここで提示した〔ホットボンドや金槌による身近な木の実や木片を使った木工活動の保育の位置付け〕にそって、ねらいや環境構成、指導計画を立てていくといったより保育実践的な取り組みが可能かどうかを検証していきたい。

また、今回の園での活動に学生が同行して実際に幼児の援助や観察を行っていたわけであるが、このような環境構成や活動に対してどのように考えるのかを考察し、学生の視点と保育者との視点の比較を通して保育実践を理解する教授の方法を探って行きたい。

木工活動を行った協力園

気仙沼市立かやの身実保育所、釜石保育園、下田保育園、盛岡市立手代森保育園、盛岡大学附属厨川幼稚園、盛岡大学附属松園幼稚園

参考文献

- 岩崎基次、平成6年3月、幼児の自発的活動を深め、広げるための環境構成のあり方、上越教育大学学校教育学部附属幼稚園研究紀要1号
- 文部科学省、2008年、幼稚園教育要領解説、フレーベル館
- 岩崎基次、2011年、幼児が主体的にかかわれるような環境構成の視点を養う—身近な遊具の設定場面を通して、学生のそれぞれ多様な視点から子どもの視点を探る—、平成23年度全国保育士養成協議会第50回研究大会 発表
- 岩崎基次、2013年、遊びと環境における幼児と保育者の視点を探る1—学生の環境構成の捉えから—、日本保育学会第66回大会 発表
- 岩崎基次、2014年、遊びと環境における幼児と保育者の視点を探る2—学生同士の意見の相違から環境構成の在り方の気付き—、第67回大会 発表

平成25年10～12月木工活動後のアンケート結果

— 47 —

25-10-12	C保主	使用上の注意等はあるけれど、簡単に思っているように、材料も木の裏や外材だったので。	12 6 機会があれば、材料等がそろえられたら、いろいろな形で取り組めると思われ。	1	1	今まで自分が思うように、にがや重機を使う程、暇のなかつたと思える。	1 2	5 7 様々な体験が良いと思うが、大人の手が必要なので大変らしい。	12345 789 マコロニ、ヒコ 新金	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨	材料、道具等の持込みで、学生さんがいたことで、安心して取り組むことができました。木工遊びの機会、本当にありがとうございました。
25-10-12	C保国			1 12 4	2				123456789	①②③④⑤⑥⑦⑧	保護所だけではできない体験ができました。
25-10-11	D保5	1 6 制作活動にもできるで、大きな個人差がある。その中、一人ひとりの成長に合わせた活動に工夫していく。	1 6 機会があれば、材料等がそろえられたら、いろいろな形で取り組めると思われ。	1 12 4	2				12345 789	①②③④⑤⑥⑦⑧	自然物と触れ合いや初めての経験を楽しませていただきました。子どもたちも楽しんでいました。子どもたちも自分で作ったものをしっかりと持ち帰り、お父さんお母さんに届けたと、嬉しそうに教えてくれました。
25-10-11	D保5	説明はきちんとあったが、やはりややこしい子にいたが、やめ。		2 3	2	3 5			1234 789	①②③④⑤⑥⑦⑧	いろいろな種類の松まつりや木の葉、木片を使用する製作をする事ができ、子どもたちにとって良い体験となったと思います。
25-10-11	D保主	1 6 制作活動に取り入れてみてはどうかと思いました。	1 6 制作活動にもできるで、大きな個人差がある。その中、一人ひとりの成長に合わせた活動に工夫していく。	1 12 4	2				12345 789	①②③④⑤⑥⑦⑧	なかなか慣れるまではできない体験をさせてもらいましたが、子どもたちの笑顔から、楽しんでくれたことが伝わりました。
25-12	E保主	1 6 前にも一度経験があるが、一人1台あったの自由な使用ではなかった。今、同意のいきなり好きなように作ることができた。使用制限がなかった。	1 6 制作活動にもできるで、大きな個人差がある。その中、一人ひとりの成長に合わせた活動に工夫していく。	1 12 4	2				123456789	①②③④⑤⑥⑦⑧	水遊びをきっかけに、大学の学生さん先生と交流できた子どもたちは、とても良い経験させてもらいました。今後、声を掛けていただければ幸いです。
25-12	E保池	1 6 楽しそうに制作しています。他の園でポットポンドを使った経験もあって、要領よく使っていた子もいました。	1 6 制作活動にもできるで、大きな個人差がある。その中、一人ひとりの成長に合わせた活動に工夫していく。	1 12 4	2				123456789	①②③④⑤⑥⑦⑧	今回は、木工活動を楽しませてもらった。ありがとうございます。是非次回も木工活動もしくは他の活動が選べるようにしたいと思います。
25-12	E保副	1 6 楽しそうに制作しています。他の園でポットポンドを使った経験もあって、要領よく使っていた子もいました。	1 6 制作活動にもできるで、大きな個人差がある。その中、一人ひとりの成長に合わせた活動に工夫していく。	1 12 4	2				12345 789	①②③④⑤⑥⑦⑧	ひとり一人作りたいたいように思っている。自分なりに考えて、工夫する姿に、どの子も楽しんでいました。学生さんの星守りアドバイザーとしてありがとうございました。いろいろな道具や素材の活用で、発想豊かに個性が現れること楽しみにしています。

平成26年11～平成27年1月木工活動後のアンケート結果

26-12	A保5	1 6 年長児にとって難を付けている意味で必要な経験だと思いました。	1 6 制作活動で集中できる時間はない。1時間程度です。木工は2時間近く楽しめました。自然物の魅力が子どもたちに伝わり、楽しめたのだと思います。	1 12	1	日頃の保護にも取り入れています。様々な経験の積み重ねとして良いと思います。	1 12		123456789	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	とても楽しい活動でした。喜んで取り組んでいました。来春もぜひ早い時期にいらしてくださればと思います。
-------	-----	------------------------------------	--	------	---	---------------------------------------	------	--	-----------	--	--

